

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月5日

【評価実施概要】

事業所番号	3271500278		
法人名	特定非営利活動法人 あかぎ福祉会		
事業所名	あかぎファミリーケアセンター まんてんの家		
所在地	島根県飯石郡飯南町下赤名1919番地1 (電話) 0854-76-9330		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成20年5月30日	評価確定日	平成20年7月7日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

行政の支援を受け保育所を改装して作られたホームで地域密着型としての役割を担い4年が経過した。旧保育所の名残の桜の木の下で利用者も家族も地域の人と一緒に花見をしたり、近所の人が草刈りや畑打ちを自然に行ってくれるなど、利用者は安心した環境の中で持っている力を活かしながら笑顔で生活している。職員は毎月計画的に研修を行い、常にケアの振り返りを行いながら利用者と向き合い、意欲的に質の向上に取り組んでいる。

【情報提供票より】(20年4月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤4人, 非常勤6人, 常勤換算6、5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有() 円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85, 4歳	最低	72歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	飯南病院・来島診療所・和田医院
---------	-----------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 「運営推進会議の2ヶ月に一回の開催」「利用者の定期健康診断の実施」「災害時に備えての備蓄」が主な改善課題だったが、どの課題も改善されていてホームのサービスの質の向上に対する積極的な姿勢がうかがえた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員会議などで全職員で話し合いを行いながら自己評価に取り組んだ。課題を共有しながら改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に一回開催し、利用者の状態やホームの運営状況などを報告している。出席者から質問が出たり意見交換を行っているが、出された意見を運営に反映させるまでには至っていない。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情に対応する仕組みもきちんと整備されていて、家族の訪問時や電話で意見を聞いているが、これまで要望、苦情は出ていない。意見を運営に反映するために家族会の開催を年4回にすることを計画している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の祭りや中学校の行事に参加したり、ホームの花見や彼岸法要には地域の人にも参加してもらっている。日常的に花や野菜の差し入れがあり、自治会、老人会、ボランティアなどと自然な形で交流している。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの役割と意義を職員全員で話し合い、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らせるようにわかりやすい言葉で理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会などで理念の共有化に努め、常に理念を意識しながら利用者の立場に立って日々のケアにあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学校や地域の行事に参加したり、ホームの花見や彼岸法要に地域の人も参加している。花や野菜の差し入れがあったり、老人会、ボランティア、近所の人などごく自然に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会などの会議で全職員で話し合い自己評価を行った。評価の意義を理解し、課題を共有しながら積極的に改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、利用者の状態やホームの運営状況を報告し意見交換を行っている。	○	さらに、出席者とホームの課題や改善点を共有しながら、意見が運営に反映されるような会議になることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者や管理者は市町村担当者と顔見知りで、会議や情報交換などをおして日常的に連携を図っている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にたよりを発行し、家族の訪問時やメール、電話などで状況報告をしている。ホームでの生活をたくさんの写真に撮り利用者の暮らしぶりを生き生きと伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、家族の訪問時に要望などを聞くことに努めていて苦情などに対応する仕組みがあるが、これまで家族から意見や不満は聞かれない。	○	さらに、家族も利用者の生活を支えるチームの一員としての役割を積極的に果たせるよう、意見を引き出す工夫を望みたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がある場合には利用者すぐに紹介し、1ヶ月間は見習い期間として馴染みの職員と一緒にケアにあたっている。職員は町内出身で利用者とも馴染みやすい。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修に積極的に取り組み内容を共有しあっている。内部研修は職員の希望を聞きながら年間計画を立てて毎月実施し、技術や知識の習得に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は圏域のグループホーム部会や地域の関連の事業所と連携し研修や情報交換を行っている。職員の研修も計画されている。	○	職員同士の研修も計画されているので是非実現していただきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には見学や説明を十分行っている。利用者の状況によっては、家族と相談しながら家への外泊や外出の支援をし納得してからの利用になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から野菜の植付け方法や、しいたけの乾燥の仕方など生活の知恵を教わる場面が多くあり、共に支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報や日々の生活の中で得た利用者の思いを職員全員で共有している。自分の思いを伝えられない利用者には居室で話しを聞くなど配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、計画作成担当者会で立案し、職員会議で職員の意見を聞いて作成している。家族にも参加してもらい計画を立てるように努めているが、参加できない場合は前もって意見を聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、計画に基づいてきちんと見直しを行い利用者の状況把握に努めている。必要時には随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援や利用者の自宅への同行、理美容院への付き添いなど利用者、家族の状況や希望により柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、利用者の希望に沿った主治医への受診を支援している。週一回、往診を受けている人もいる。健康診断も計画的に実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から家族や利用者話しをしていて、状態の変化のあった時は主治医や関係者と連携しその都度話し合うことになっている。	○	さらに、関係者と話し合いを重ねながらホームの機能が最大限発揮できるような取り組みを期待したい。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者も職員も町内出身でありプライバシーの確保を徹底させている。日々の生活の中で声かけや対応、記録物にも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調やペースを優先し、作業などその日の希望を聞きながら利用者主体の生活の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせ準備や後片付けなどを行い、職員も一緒に和やかに食事をしている。誕生日には希望の献立が並び楽しみになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者に声をかけながら希望の時間に入浴してもらっている。職員体制もきちんととられていて夜間対応もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、塗り絵、布のわらじ作りなど、利用者の生活歴や得意なことを活かす場面がたくさんある。自分で買ったパンを食べたり、弁当やおやつを持って出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望を聞きながら散歩やドライブ、買い物、外食などを実施し、利用者の当たり前の暮らしを支援している。グランドゴルフや日光浴なども楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけていない。利用者が一人で外出した時には同行、見守りを行っている。地域の人とも顔見知りで見守りの体制がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、定期的に避難訓練を実施している。自治会の人もほとんど参加され消火器の使い方など一緒に学んでいる。備蓄もしている。	○	地域の人々の協力もありよく努力されているが、夜間は不安があるので繰り返し研修を積んでいただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食や粥など状態に合わせた食事形態で、摂取量を毎食記録している。水分量にも気を配っている。糖尿病の人にも主治医と相談しながらさりげなく配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が飾られ、ゴミ入れやクッションなどの手作り品が優しい雰囲気を出している。毎日、5～6部の新聞が置いてあり、利用者は自由に居室に持ち帰り読んだり使ったりしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品やこたつなどを持ち込み、思い出の写真や生け花などを飾って居心地のよい居室になっている。表札は利用者の地域での生活を大事にし屋号で明示してある。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。